# 第3章 都市づくりの基本方針

#### 1 まちづくりの基本理念・方針

#### (1)まちづくりの基本理念

立地適正化計画でのまちづくりの基本的な理念を設定するにあたり、上位計画である「第5次基山町総合計画」での全体構想及び「基山町都市計画マスタープラン」での将来都市構造を整理します。

#### ① 第5次基山町総合計画での全体構想

基山町の将来像である「アイが大きい基山町」〜住む人にも訪れる人にも満足度 No.1 のまち基山の実現〜と、それを実現するための重点戦略『K-プロ』(3つの戦略と5つのプロジェクト)を新、基山構想(基本構想)と位置付け、基本計画と連動して取り組んでいきます。

#### 総合計画での基本構想



#### [基本計画]

まちづくりの方向性

## 自然 tdea

#### 基山町の自然と開発が調和したまち

ホタル舞う水辺や基山(きざん)での草スキーなど基山町の豊かな自然は町民の誇りです。この自然環境を活かしながら、九州で最も集客力を持つ「基山PA」を有するまちとして、魅力的な集客拠点や宅地整備などに力を注ぎ、人が集まる基山町を創出していきます。

#### 施策体系

- 1 土地利用
- 2 まちなみ環境
- 3 集客拠点整備
- 4 交通基盤整備

## 教 † idea

#### オール基山で人を育てる教育力の高いまち

基山町はスポーツに、文化芸術に、多くの人材を輩出しているまちです。今後は、総合的な教育力の高さを基山町の特性にできるよう、地域の多彩なキャリア層や、新図書館の活用など様々な方面から学習の場を創出していきます。

- 1 学校教育
- 2 基山式まなび
- 3 スポーツ
- 4 文化財の利活用

## にぎわい + idea

#### 「基山発」を生み出すアイデアのあるまち

基山町の産業については高齢化、後継者不足、雇用など様々な問題を抱えています。今後は新たな価値を産むブランド化や地産地消、第六次産業、民間力の投入などアイデアを効果的に活用しながら、ヒト、モノ、カネが循環するまちを創出していきます。

- 1 農林業
- 2 工業
- 3 商業
- 4 観光
- 5 基山発

## 安心安全 + idea

#### 基山町に住む人を大切にするまち

高齢化が進む基山町において、福祉環境の充実は最も 重要な責務です。高齢者の移動手段や集いの場などを 充実させ、元気な高齢者が多い基山町の良さを継続し ていきます。また子育て支援や防災など、さらに地域力 を強化し、支え合うまちを創出していきます。

- 1 子育で支援
- 2 高齢者支援
- 3 障がい者(児)支援
- 4 健康・医療
- 5 防犯・防災

## 協動 + dea

#### 基山町のために結束できるまち

「基山町まちづくり基本条例」を推進していますが、地域間においても様々な問題を抱えており、行政、町民間においても情報発信・共有が不十分な状況にあります。 真の協働のまちをめざして、改めて町民主体の結束のまちを創出していきます。

- 1 まちの結束
- 2 人権·男女共同参画
- 3 情報公開
- 4 行財政

「+idea」は住民の皆さんの意見や思いを盛り込んでいることを表しています。

出典:第5次基山町総合計画

#### ② 基山町都市計画マスタープランでの将来都市構造

都市計画マスタープランにおいては、将来像の実現に向けて様々な施策や事業を展開していく基本的な骨組みを、将来のまちのすがたとして「拠点」、「軸」、「ゾーン」の3つで構成しています。

#### ●拠点

⇒都市機能が集積し、人々の活発な交流を図る地区

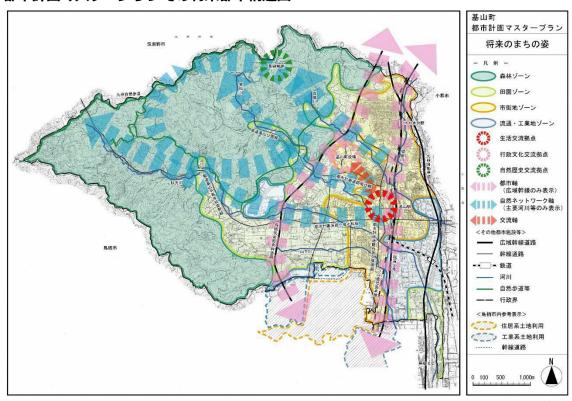
#### ●軸

⇒町内外の交流や結びつきを強めるネットワークを形成する道路や河川沿い

#### ●ゾーン

⇒土地利用等のまとまりや共通の特性を持つ場所

#### 都市計画マスタープランでの将来都市構造図



出典:基山町都市計画マスタープラン

整理した基本方針を踏まえ、立地適正化計画で引き継ぐべき項目を抽出し、基 山町立地適正化計画における基本理念を以下のとおり設定します。

上位・関連計画	立地適正化計画で引き継ぐべき項目
第 5 次基山町	「自然+idea」基山町の自然と開発が調和したまち
総合計画	「安心安全+idea」基山町に住む人を大切にするまち
	●生活交流拠点
	交通結節、商業、業務、文化、住宅等の機能集積によ り、便利で質の高い生活を提供する場
	●行政文化交流拠点
	行政サービス、福祉、文化等の機能集積を活かし、文 化性の高い環境を提供する場
基山町都市計画	●都市軸
マスタープラン	町内外の拠点を相互につなぎ、人やモノの交流を促し 活力を高める軸
	●交流軸
	町内の拠点を相互につなぎ、交流を促し魅力を高める 軸
	●市街地ゾーン
	住宅をはじめ店舗等が立地する市街地



#### 「基山町立地適正化計画」における基本理念

### コンパクトで持続可能なトカイナカ 基山町

※「トカイナカ」とは都会生活の利便性と田舎暮らしの愉しみを両立できるエリアの造語です。基山町は福岡市や鳥栖市、久留米市等へのアクセス性も良く、便利な立地でありながらのびのびと暮らせる環境が最大のメリットであり、将来的にこのような生活環境を維持することを目的に、基本理念を掲げました。

#### (2) まちづくりの方針

整理した課題点を踏まえ、まちづくりの方針(本計画のターゲット)を設定し ます。

【行政運営】 人口維持を目指すべき箇所への居住の集積による メリハリある都市づくりが必要 【人口動向】 増加する高齢者が安心して暮らせるまちづくりが必要 安心して子どもを産み育てられる環境づくりが必要 インフラ整備費用の抑制と町民の税負担の軽減化人口構成の適正化と利便性が高く都市基盤が整備されている箇所への人口誘導による 進学・就職後も住み続けたくなる魅力づくりが必要 基山駅周辺に散在する低未利用地の活用が必要 【土地利用】 都市機能や住宅の受け皿としての空き家の有効活用、 土地利用の検討が必要 公園などの公共空間の有効活用が必要 公共交通利便性の高い箇所への人口誘導が必要 【公共交通】 町内移動を目的とした公共交通の充実による 高齢者の移動手段確保が必要 コミュニティバスに加えて新たな移動手段の検討が必要 基山駅周辺での魅力ある拠点形成が必要 【都市機能 将来的に発生しうる町内での購買需要に対応するための 商業施設維持・集積が必要 【都市基盤 住環境基盤の整った箇所への人口集積、高齢化の進む地区への 若返り促進が必要 避難所の機能向上による安全性確保が必要 【災害】 避難情報の周知による安全性確保が必要

#### 【拠点エリアへの都市機能誘導】

●将来的に発生する人口減少下においても現状の利便性を維持するためには、 各拠点において必要機能の維持・集積を図り、魅力ある拠点を形成すること が重要です。

そのため、各拠点の特性を踏まえた都市機能の誘導を図り、性質に合わせた魅力ある拠点の形成を目指します。

#### 【利便性の高い箇所への人口誘導、安全性の強化】

- ●基山町の人口はおおむね横ばいに推移していますが、これらは移住定住施策が功を奏しているものであり、将来的に密度を維持していくためには移住定住施策を通じて誰もが住みやすい居住環境の整備を図ります。
- ●居住誘導を図る際にも、空き家等を活用するほか人口維持を図るための受け 皿を確保し、交通利便性が高く都市基盤等が整備された利便性の高い箇所に 誘導することによって、市街地の低密度化を防ぐことが必要となります。 そのため、利便性の高い箇所への人口誘導を図り、暮らしやすい住環境の形成を目指します。
- ●良好な住環境が形成されているけやき台においては、高齢化率の増加が特に 顕著であり、将来的にコミュニティの衰退や若基小学校の児童数減少が予測 されるため、子育て世代の積極的な誘導による地域の若返りを図ります。
- ●基山町は町外に通勤通学している人も多い一方で町外から通勤通学している 人も多いため、町外から通勤通学している人の町内への人口誘導を図ること で人口の低密度化を抑制します。
- ●基山駅南側エリアにおいては、豪雨災害が発生した際に浸水被害が想定されています。これらの地域において安全な住環境を形成するためには、避難情報の周知や避難所の機能向上を目指します。

#### 【公共交通を利用しながら歩いて健康的に暮らせるまちづくり】

- ●基山町の強みとして、近隣市町に容易にアクセスできる利便性があります。 その一方で町内を移動する手段はコミュニティバスやタクシーのみとなって います。
- ●将来的に高齢者人口が増加し、自動車の運転ができなくなる人も増加する見 込みであることから、自家用車に過度に依存せずに公共交通を通じて歩いて 暮らせるまちづくりが必要となります。
  - そのため、公共交通の充実や中心市街地への住み替えなどによって、高齢者も健康的に暮らせる環境づくりを目指します。
- ●町全体をフィールドとしたウォーキングの定着を図り、健康的に暮らせるま ちづくりを進めます。
- ●公園などの公共空間をイベント等で活用することにより、地域住民のコミュニティを活性化させ、居住環境の向上を目指します。

#### 2 将来の目指すべき方向性

#### (1) 将来のまちの姿

立地適正化計画は都市計画マスタープランの高度化版であるため、都市計画マスタープランとの整合性を図りつつ、2章で整理した課題点やまちづくりの方針を踏まえ、将来のまちの姿を設定します。

なお、立地適正化計画は人口減少に対応した集約型都市構造のあり方を位置付ける計画であることから、都市計画マスタープランで整理されている「拠点」、「軸」、「ゾーン」のうち、以下の箇所について方向性を設定します。

#### 【拠点】

- ●生活交流拠点(基山駅周辺)
- ●行政文化交流拠点(基山町役場周辺)
- ※けやき台駅周辺においては、都市計画マスタープラン上の拠点に位置付けられていませんが、公共交通利便性が高く、周辺エリアの利便性向上について整理すべき箇所であるため、拠点形成の方向性を合わせて検討します。

#### 【軸】

●都市軸(JR 鹿児島本線)

#### 【ゾーン】

●市街地ゾーン

#### 【拠点】

① 生活交流拠点(基山駅周辺)

#### [都市計画マスタープランでの位置づけ]

#### 生活交流拠点

・基山駅周辺の商店街や旧町役場周辺を生活交流拠点とし、交通結節機能をはじめ、商業、業務、文化、住宅等の機能集積により便利で質の高い生活環境を提供していきます。

#### 交通結節点

・基山駅周辺における駐車・駐輪場の確保、さらに基山駅への公共交 通機関による利用の利便性向上のための、路線バスを含めたバス交 通運行のあり方について検討します。



#### [立地適正化計画での方向性]

中心市街地として都市機能を集積するべきエリアであるため、都市機能誘導区域の設定を検討します。

② 行政文化交流拠点(基山町役場周辺)

#### [都市計画マスタープランでの土地利用の方向性]

・基山町役場、保健センター、町民会館周辺を行政文化交流拠点とし、 行政サービス、福祉、文化等の機能集積を生かし、文化性の高い環境 を提供していきます。



#### [立地適正化計画での方向性]

行政機能、文化・福祉機能の集積・充実を図るエリアであるため、都市機能誘導区域の設定を検討します。

#### ③ けやき台駅周辺

#### [都市計画マスタープランでの土地利用の方向性]

・位置づけなし



#### [立地適正化計画での方向性]

都市機能施設の集積はあまりないものの、周辺エリアは良好な住環境が形成されており、これらのエリアに居住する人たちの利便性向上を目指す観点から、都市機能誘導区域の設定を検討します。

#### 【軸】

① 都市軸 (JR 鹿児島本線)

#### [都市計画マスタープランでの位置づけ]

・人やモノの交流を促し、活力を高めていきます。



#### [立地適正化計画での方向性]

鉄道駅周辺に人口誘導と鉄道駅へのアクセス性向上を図ることで、 公共交通の利用者維持による利便性の維持を図ります。

#### 【ゾーン】

① 市街地ゾーン

#### [都市計画マスタープランでの位置づけ]

・快適な住環境、利便性の高い商業、業務環境を維持、形成していきます。



#### [立地適正化計画での方向性]

将来的な人口動向や公共交通の利便性、都市基盤の整備状況を踏まえ、居住誘導区域の設定を検討します。